

業務用冷凍空調機器のフロン類充填回収業者の皆様へ

冷媒回収率の向上は、 社会全体の使命です

回収されたフロンは
第一種フロン類再生業者への引渡しを推奨します
業務用冷凍空調機器の廃棄時におけるフロンの回収率は4割程度に留まっている^{*}ため、
回収率向上の対策が必要です

※環境省、経済産業省「令和3年度のフロン排出抑制法に基づく業務用冷凍空調機器からのフロン類充填量及び回収量等の集計結果」より

効率の良い回収作業について

- ✓ **事前の現地確認と準備**
機器運転用及び回収装置用電源の有無、機器に封入されている冷媒の種類と充填量を事前に確認し、回収作業に使用する機材の準備をしてください。
- ✓ **各種弁の全開**
機器の弁などが閉じていると回収はできません。
機器の取扱説明書に従って、回収モードを使用することで閉鎖の解消が可能です。
回収モードを使用できない場合は、専用ツール（ピアッシングツールや電磁弁オープナーなど）で閉鎖区間を解消してください。
- ✓ **冷媒の寝込み・溶け込み**
ガス状冷媒回収を続けると圧力低下によって低温凝縮し、冷媒の寝込みが発生する可能性があります。
また、冷凍機内の油中に冷媒が溶け込むこともあります。可能であれば、機器の暖機運転を5～10分行ってから回収作業を始める、あるいは室外機全体や霜付き発生場所を加温して回収作業を行うと回収の効率が上がります。
- ✓ **回収容器の温度上昇**
夏場の作業など気温が高いと、回収容器の温度が高くなり回収容器内の圧力が上昇するため、回収速度が低下し、作業が継続できなくなることがあります。
また、回収容器の溶栓が約60℃に達すると溶解する仕様なので、回収容器の温度を下げながら回収してください。
- ✓ **冷媒回路の確保**
機器と回収装置との接続ホースは、できる限り大口径のものを使用して回収作業を実施してください。

フロン再生のための回収作業の注意点

異種混合したフロンは再生できません、適切な回収を行いましょう。

- ✓ 回収に使用する機材をフロンの種類ごとに準備することをお勧めします。
 - ・回収する機器のフロンの種類を正しく認識していても、回収装置内に残留したフロンや冷凍機油に溶け込んだ異種フロンが原因で異種混合することがあります。
 - ・冷凍機油が付着する可能性のあるマニホールドやホースなどはフロンの種類ごとに準備し、フロン回収装置及び回収容器についても、真空ポンプを使用して内部を充分真空引きし、異種混合を避けるようにしてください。可能であればフロンの種類ごとに専用化することが推奨されます。

- ✓ 回収容器には規定に基づきフロン名を記載し、表示されたフロンのみを入れてください。



回収容器には、白色で容易に消えない方法でフロン名を記載してください。

フロン類充填回収業者さまへのお願い

- ✓ フロン排出抑制法、高圧ガス保安法など作業に関連する法律を遵守し、作業を行いましょう。
- ✓ 作業中は、安全対策を施し、事故などに気を付け、フロンが漏えいしないように注意しましよう。